

2020年サクラだより12

新型コロナの感染拡大は、極東では終焉とは行かないまでもある程度おさえられて来いるようですが、欧米に拡散中。イタリア、スペイン、フランス、ドイツ、アメリカなどの欧米の感染者は初期の中国の数を上回るようになってきています。

日本では、特定のクラスターといわれる集団感染が主で、個人間への感染は少なく、自粛の緩和の方向へ動いている。とはいえ、油断は出来ない。シニアは感染すれば重篤化しやすいとのこと、しばらくは自粛が必要であろう。

*観察のサクラだより

たより10でお知らせした向う10日間の天気予報は的中、14日~16日は冬の気温となりました。膨らみかけたサクラの蕾も一休み。14日の東京の開花宣言以降、各地からの新たな開花宣言は出されてきていません。

観察中のソメイヨシノの昨日朝の姿は



ピンクの蕾が顔をのぞかせてはきていますが……。まだ、開花には時間がかかりそう。



一方近くのオオシマザクラ、花柄がのび蕾を突き出しています。こちらは2、3日で開花となりそ

うです。本日確認に行ってみます。

*陽光の開花。

毎年、春先に大きなピンクの花をつける木と通



りがかりに見ていたのですが、今年は散歩コースに入れウォッチングしてきました。樹高は6mほどで個人住宅の庭先に植えられています。ヨウコウ（陽光、学名: *Prunus campanulata*



'Yoko') で日本原産の交雑種のサクラ、愛媛県に在住していた高岡正明がアマギヨシノと（天



城吉野）ヒカンザクラ（緋寒桜）を交雑させて作出した園芸品種。1981年に種苗法により登録された。ヒカンザクラの特徴を受け継ぎ蕾は下向きにたれ、花も下向き気味。通常、ソメイヨシノに先立って開花する。ピンクの一重の大型の花は美しい。陽光は太陽の光を浴びて咲く、という願いも込めて名付けられています。樹形は広卵状で、樹皮は灰色で皮目は比較的まばら。ソ

メイヨシノより、てんぐ巢病や病害虫に強い樹勢強健な種とされる

この「陽光」については、作出した高岡正明氏の平和への祈りが込められているという。

高岡正明氏は第2次世界大戦中に学校教員であったが、戦後、送り出した教え子たちが戦場に散ったことを悼む鎮魂の旅に出た。旅先の沖縄で緋寒桜と出会い、戦死した生徒たちの冥福を祈って各地に桜を贈ることを思い立った。環境適応能力が強いサクラを作出すべく、25年の試行錯誤の後に、寒さに強いソメイヨシノに由来を持つアマギヨシノと台湾原産の暑さに強いヒカンザクラを交雑させて誕生させた。25年もかけ作出にした陽光桜（ヨウコウザクラ）を、作者は「平和のシンボル」として各地、各国にも贈り続けた。氏の活動は高橋玄著『陽光桜 非戦の誓いを桜に託した、知られざる偉人の物語』（集英社刊）として紹介され2018年には映画化もされている。

*促成試験の結果。

・3月1日採取した枝、(花芽26、葉芽6)は10日目に5個の花芽が開花、多少膨れた芽10個、先が茶色になったもの6個、全く動かなかったもの3個であったが、膨れかけた花芽等に変化がない。開花した芽に養分をとられたか？芽は乾燥状態。全く動かなかった3個の芽を「休眠打破」されなかった芽とは断定出来ない。

・3月11日採取の枝（花芽19個含む）



16日に1個が開花、17日には開花計5個、蕾の見える芽4、膨れた芽5、膨れ小4、不動1であった、(室温：平均21℃で)

この枝では、促成法で花芽の成長にはっきりと差

がでてきた。「休眠打破」の時期の差と思われる。なお、咲いた花は下の写真の通りであり、おしべの先に葯がつき、完全な花構造となっている。(3月1日の枝に咲いた花は葯なし)やはり、樹では冬芽の展開時には本体から、水、養分の補給がなされているのでしょう。



*この枝の芽はいつ「休眠打破」された？

日平均温度を用いる「積算温度」400℃法で解析して見る。

・開花16日の芽には室内で、21℃x5日の積算温度が加えられた。105℃を加えて開花したのだから、試験前の11日にはすでに、295℃の積算温度が加わっていたことになる。

3月、2月の旬・日平均気温は

$$3/1 \sim 3/10 \quad 10.5^\circ\text{C}$$

$$\text{積算温度への奇よは} \quad 10.5 \times 11 = 116^\circ\text{C}$$

$$2/21 \sim 2/9 \quad 10.0^\circ\text{C}$$

$$\text{積算温度への奇よは} \quad 10 \times 9 = 90^\circ\text{C}$$

$$2/11 \sim 2/20 \quad 9.1^\circ\text{C}$$

$$\text{同様に} \quad 9.1 \times 10 = 91^\circ\text{C}$$

ここまでで積算温度は297℃となり、

休眠打破は2月の10日前後にされていたことになる。

・一方17日開花の芽は同様に計算して行くと3月11日までの積算温度は274℃となり、これから逆算して行くと2月13～4日頃の休眠打破と算出される。少なくとも、この付近では例年のように2月1日以前の休眠打破はなく、2月に入

てから、打破されるものが多かった予想できる。

また、開花の時期は以下の計算でも分かるように休眠打破後の異常な暖かさに相殺され、例年より早く開花するところが多いと予想される。

3月16日に開花した芽にはすでに3月11日までに295℃の積算温度が加わっていたことになるから、以降平均温度が10℃程度で推移すれば、あと10～11日が必要で、3月21日～3月22日の開花が予想となる。また、17日開花の芽は後126℃の積算温度が必要で、これには12、3日が必要。実際の開花は3月23～24日の開花が見込まれる。・・・残った芽の開花はもっと遅れることになる。

ソメイヨシノの開花が一斉でなく、休眠打破された時期の早いものから順次開花して行く理由が読める。

なお、一般には12～1月の気温が高く、休眠打破が遅れた年は開花～満開までの期間が長くなると言われている。実際の樹で観測しましょう。

＊本促成テストでは、今年は休眠打破時の12、1月気温が異常に高かった為、実際の桜の開花時にどの程度「打破」されない芽が残っているのかを調べて見ようとしたものであった。3月1日採取の枝で、促成試験を続ける中で全く膨れなかった芽の割合を求めるのが趣旨。従って、少なくとも外部とは高温になる室内でとの指定で始めた。取り敢えず、積算温度(平均室温×日数)400℃で、動きのなかった芽は3月1日時点で休眠打破されていなかった芽と判定する。(花芽について、葉芽は別)。

なお、ソメイヨシノ以外の桜を見られた方では葉芽も膨れた場合は(開いた芽／葉芽の総数)で評価されれば良いでしょう。平均の室温が推定出来れば、促成試験の開花から上記のように400℃ルールを使って、開花予想や、休眠打破の時期の推測ができるでしょう。検討して見て下さい。

＊ソメイヨシノの展葉観測・開度の評価法(再)

・観察しようとする公園などの同一エリア(温度条件等の環境が同じ場所)内で、2、3本のソメイヨシノのから、**短枝**(花の咲く枝)10～15

本の観測対象枝を選定します。(1本でも可)

＊手に取って観れる枝であれば最高、目の届く低い枝を選定し観察対象とする。

・選定した枝(芽が1個入るように)にテープなどを使ってマーキングしておきます。

A, B, C, D, ...

- ・通常展葉前の3月中旬よりマーキングした個々の枝について、一定期間ごとに下記の判定基準に従い葉の開度(0～4の5段階で)を記録して行きます。(展用は花の散った後とは限らない。花期の終わりごろには展用が見られます)
- ・(期間は5日～1週間ごとに測定とする)
- ・調査した日に得られた個々の値を平均し、調査日の値として記録して行きます。
- ・全ての測定対象木で開度が4となったらその年の観測は終了となります。
- ・上記の方法、データー処理はシニア自然大学校のスタンダード法として決められおり、現在甲山など4ヶ所のサークルでデーター集積が続けられています。(京都大学・フィールド研との協同)

＊展葉の区分 (葉芽の開度の判定基準)

0：芽(葉芽の展開がない)

1：芽が延び始める(葉先がのぞく ～葉1枚1枚の認識できるまでは1)

2：個々の葉1枚1枚が識別可能

(展葉してきた葉の葉脈、鋸歯など葉の輪郭が見える。展葉が5cmまでは2)

3：葉の面積が成熟時の半分

(展葉してきた葉の葉身が5cm前後達したとき～4まで)

4：個葉面積最大となったとき

(個々の測定値に2.5とか3.5などの判定はなし、0～4の整数記載。)

＊ソメイヨシノの短枝の先端の葉芽からは通常4～7枚の葉を付けたシュートが展開します。

＊なお、ソメイヨシノには、短枝の葉芽以外に長枝の葉芽、幹から出た細い枝の芽、および根元から萌芽し伸びた枝などにも葉芽がありますが**短枝の頂芽**以外は今回の対象外です。 以上